

# 特集：グローバル化3.0

Special Edition “Globalization 3.0”

日本のグローバル展開を企業活動の面から見ると、歴史的に次の3段階に分けることができる。

第1段階は、製造業による、モノの輸出を中心とした国際化である。

第2段階は、製造業の海外シフトが進展し、日本独自のきめ細かい「ものづくり」のノウハウを海外工場に移植することで国際競争力を維持・発展させた段階である。

この第1及び第2段階は、いずれも主としてわが国の製造業サイドのニーズに基づいて拡大していったグローバル展開であったと言える。

これに対して、現在は第3段階のグローバル化3.0にあると考えられる。

第3段階への変化が生じた背景としては、物資を重視する社会から本格的な知識社会へのパラダイム変換、ベルリンの壁の崩壊によるグローバル・マーケットの拡大、インターネットの爆発的な発達・普及等によって生じた国境にとらわれない一体化された世界経済への対応の必要性、BRICsの台頭など、世の中のパラダイムが複合的に変化したことによってもたらされたと考えられる。

具体的には、資本や資源、人材等の国際的な移動に関する制度やインフラストラクチャー等が新たに設定・整備され、いわば世界的レベルで“ゲームのルール”が否応なく変わりつつあり、こうした新しいグローバル化3.0に対して、企業や社会、そして個人は否が応でも対応が求められる、新たな時代に突入している。

本特集においては、この第3段階のグローバル化3.0を「グローバル化3.0」と名付けた。

ただし、この「グローバル化3.0」への日本の対応は、欧米の価値観やスタンダードへのキャッチアップが中心であった従来のグローバル対応とは決定的に異なるものになるべきではないか。すなわち、日本の強みや弱みを冷静に分析した上で、日本の価値観を世界に対して積極的に訴求していく中、わが国独自の設えを鍛えたうえで、世界との関係を新たに構築していくべきであると考えられる。

本特集においては、こうした考え方に立ち、「グローバル化3.0」に日本企業、さらには日本社会がどのように対応すべきかを、さまざまな分野から模索していく。